

日時 令和7年5月23日
13時30分～

令和7年度 大阪府立日根野高等学校第1回学校運営協議会

進行 教頭 川瀬 治彦
記録 教諭 伊藤 智崇

1. 校長挨拶

2. 協議会委員及び事務局員紹介

1) 協議会委員（出席者）5名

泉佐野泉南医師会看護専門学校	副学校長	西田 好江 様
ひねのこども園	園長	神藤 吉伸 様
泉佐野市立日根野中学校	校長	古谷 秋雄 様
イオンモール日根野	ゼネラルマネージャー	師 啓介 様
大阪府立日根野高等学校	後援会役員	梅津 二三代 様
大阪府立日根野高等学校	PTA 会長	水上 寿香 様

2) 事務局員（出席者）10名

校長	山本 好男
教頭	川瀬 治彦
事務長	大庭 毅
首席	栗原 重彦
首席	矢萩 友之
教諭（教務部長）	大土 渡
教諭（生徒指導部長）	木藤 耕平
教諭（保健総務部長）	山口 清美
教諭（進路指導部長）	小池 洋介
教諭	伊藤 智崇

3 実施要項の確認

- ・任期2年（今年から）

4 協議案件

1) 協議会会長の選出

- ・会長に、PTA 会長（庄司氏）、副会長に、ひねのこども園園長（神藤氏）を選出

2) 実施要項の確認

- ・変更点：希望すればオンライン会議システムによる出席を認める

3) 令和6年度学校経営計画及び学校評価について（カラー刷り資料をもとに説明）

○1-(1)-ア 授業アンケート総合スコア

全項目の平均が3.44(4点満点)⇒日根野高校の授業がわかりやすい授業

○1-(1)-イ ICT を活用した授業の満足度

目標85%に対して93.9%の生徒がそう思うと答えている

○1-(1)-ウ 考える時間や発表する活動

単に知識技能を先生が教えるというより生徒同士で話し合っって学びを深める授業

それに対して非常に高い評価をいただいている。今年度も引き続き継続したい。

○1-(2)-ア、1-(3)-ア 進路や生き方を考える機会

こちらも目標 85%に対して 92.3%と高い評価

進路キャリアについて様々な取り組みを実施。様々なガイダンスを充実したい。

○1-(2)-ア コース別合格者数（実人数）

昨年度、医療看護系は 46 名、幼児保育系が 10 名で若干減少傾向

難関大学が 24 名と目標 20 名を上回る実績

○1-(2)-イ コース・科目選択への取り組み

こちらも目標 85%に対して 90.9%と高い評価

○1-(3)-ウ 志願者倍率について

右肩下がり微減。昨年度は一倍を切った。非常に危機感を。

○1-(3)-ウ 中学生進路希望調査・入試（充足率）

定員 240 名に対して何パーセントあるのかということを表しているグラフになっている

昨年度に関しては10月12月の数値で言うと 150% を超えていた（倍率 1.5 倍）

1月2月の段階でも 120% を超えていた

本番の入試では 97% で志願者割れまで起こしたという現状

当然、学校としてはこれに対する広報活動を強化して、必ず一倍を超えたい

○2-(1)-ア 命の大切やルールを守る機会

いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向け組織的に取り組み、94%と目標を上回った

○2-(1)-エ 生活習慣の確立

本校の課題でもある遅刻者数は、4-12月で4000人以下を維持

○2-(2)-ア 部活動の活性化（加入率のアップ）

増加に転じてきており、目標の55%に迫る勢い

○2-(2)-ア 学校行事の活性化

学校行事の工夫についても目標の数値を維持

○2-(3)-イ 教育情報の提供

なんとか目標の数値には届いているが、昨年度からは若干減少傾向

理由としては、紙配信からメール配信等でデジタル配信のみに切り替えたことも一因か

○3-(1)-ア 中途退学・不登校の未然防止

令和5年度は 17 名、令和6年度は 16 名

卒業までいかに途中で進路変更する生徒という生徒がいる

学校として課題として捉えて、なんとかしたいと考えている

「相談できる先生がいる」という部分では生徒も高い評価がある

○3-(4)-ア・イ 教員の働き方改革

ア 学校ストレスの総合リスク値は3年連続80代をキープ

イ 教員の時間外労働時間は全先生方の年平均が30時間以内に収まっているが

府立高校全体からみると、140校中90番目くらいである

4) 各分掌より報告（進路指導部より令和6年度卒業生の進路結果について）

4年制大学の進学者数の大幅増加

生徒の4大志向が強まっている傾向にある

5) 質疑応答

<委員>入試倍率に私学無償化の影響はあるのか

<回答>間違いなくあります

私学と公立の比率っていうのがかつて決められていた ⇒3 対 7

あのその比率が今 40 何パーセントまで増えている

また、私学の中でも通信制が実は 7% とか 8% にも増えてきている

通信制高校へは、今高校からの転学ではなく、直接中学校から進学するケースも

<委員>進学先の学校について

<回答>大和大学が増えてきている

近畿大学をめざしてる生徒たちがちょっと難しいという理由で、

めざすレベルとして最近は大和大学があがってきている

これまでは大阪経済大学がその位置であったが、教育学部があるという点から

大和大学の方をめざす生徒が徐々に増えてきている

<教員>入試システムの大幅な変更（オンライン出願・デジタル採点等）により教員の業務量の減少につながっている

<委員>中学校としてもオンライン出願になったので志願書の手書きから入力に変わり生徒への指導内容も大幅に変わった

<教員>遅刻者数はまだまだ多いが、徐々に減ってきている

理由としては、一概には言えないが、始業のチャイムが鳴る前や各授業の前にも1分前にメロディチャイムを流し、ちょっと前から行動できるようにしている部活動の活性化についてですが、

4月最初にクラブ体験をやってただけであったが、ゴールデンウィーク前後にもう1回勧誘しようという試みで、2回目のクラブ体験を実施した

<教員>保健総務部の行事としては

4月の健康診断、5月の救急救命講習、7月の大学見学ツアー（五年ぶり）

6月にはPTA・職員合同の人権研修（親学習）を実施予定

<事務>来年度40周年をむかえ、その事業として、同窓会から400万円、PTAから800万円現在使い道について検討中

<教員>様々な理由で学校に来れない生徒に対してオンライン授業をすることで、授業の出席っていうのがもう認められるようになった

<教員>秋に開催のオープンスクールについて

秋に実施するオープンスクールの打ち合わせ会議を先日したが、本校のオープンスクールはもう生徒がメインで動いてくれている

案内誘導・受付・教室での学校紹介・座談会とか

やりたいっていう生徒がもう200名ぐらい集まっている

中学生にも、まあかなり好評のようである

<教員>教育のICT化を進めているところである

授業や先生方の公務の効率化・簡略化についてグーグルと提携して、

グーグルのアプリで利用できるものがないかというのを研究している

今もこの会議の書記担当の先生は、この会話を自動的に文字起こししている

それ以外でも生成 AI を活用して授業もしている

校長もあちらに掲示してある学校紹介ポスターも画像生成 AI で作成してある

<教員>昨年度から一年生を対象に、バスを利用して大学見学会を実施している

また PTA の社会見学会も、大学見学ツアーになっている

<委員>部活動についてですが、教員の残業時間が月 30 時間ぐらいになっているが、先生方の部活動指導の時間がうまくとれているのか、また外部の方を導入しているとか、今ではオンライン指導とかもあるとは聞いているが、30 時間以内でうまくできているのか

<回答>月 30 時間というのは教員全体の平均なので、部活動を主にされている教員はやはり月 60 時間を超える先生方がほとんどである、90 時間を超える場合もしかし月 60 時間を超えると、教育庁より指導が入るので難しいところ
対策としては、外部指導者の導入・複数顧問制の徹底といったところか

<委員>中学校は外部指導者に完全に移行するところも出てきている

保護者等に別の組織を作っているところもある（クラブチーム的に）

また、ノークラブデーを作ったりもしている

6) その他

○別添資料参照（令和 10 年度入試改革について）

入試日程が 3 月の 1 日に前倒しになる

スクールミッション・アドミッションポリシー入試の実施

学校の特色に応じた生徒をまず第一段階で選抜をする

次に学力検査と内申をもとに総合的に生徒を選抜する

スクールミッション・アドミッションポリシーについてですが、求める生徒について提示するものである（具体的には医療看護系の進学をめざす生徒等）

5 連絡事項

○今後の日程

次回は 10 月 17 日（金）14 時 20 分から

6 限目の授業見学を行っていただいた後協議に移る形になる